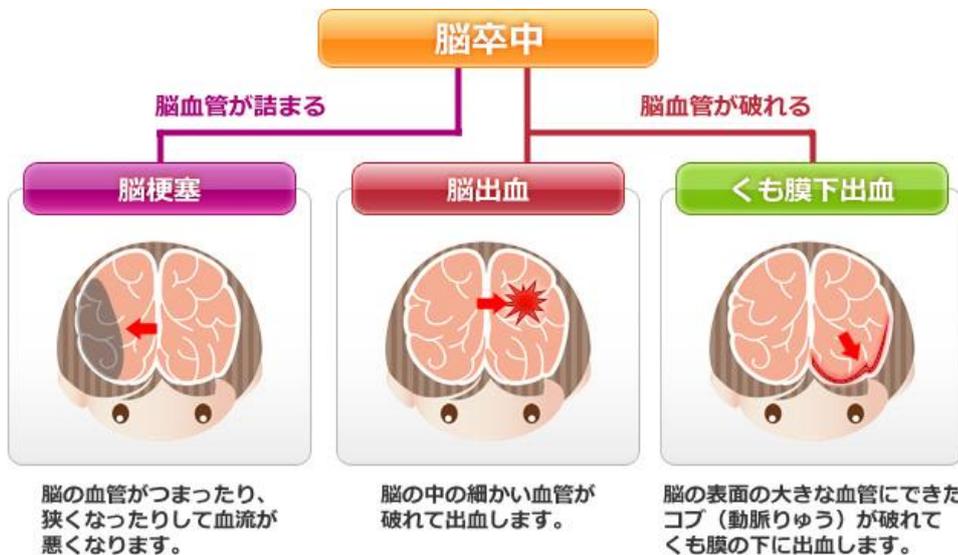


週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けることによる動脈硬化は、色々な病気につながる事を知ってもらいましたが、まだもうひとつ深刻な病気があります。それは「^{のうそちゅう}脳卒中」と呼ばれる病気で、下図に示す脳血管が詰まる「^{のうこうそく}脳梗塞」、脳血管が破れる「脳出血」と「くも膜下出血」を総称した呼び名です。

脳卒中を発症すると脳のどこかがダメージを受けます、例えば大脳がやられると、体の運動麻痺や感覚障害、ろれつが回らない、言葉がでないなどの言語障害がでます。脳幹や小脳に障害がでるとモノが二つに見えたり、ふらつくなどの症状がでるそうです。もちろん最悪の場合は死亡するケースもあります。下の円グラフはその割合を示しています。死亡者と寝たきりなどの後遺症が残る人を合わせると発症した人の半数以上になるのです。

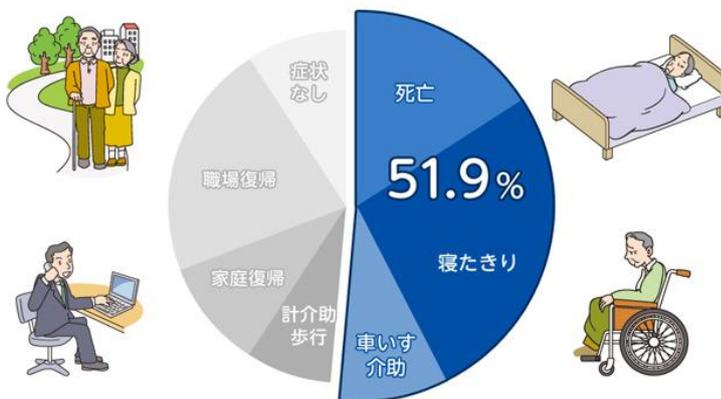


朝霧台中央総合病院脳神経外科HPから

平成26年度の厚生労働省の発表によると、脳血管疾患の患者数は117万人、脳梗塞による死亡者数は6万人もいるそうです。そして、この病気の原因のひとつが喫煙なのです。じつは、タバコのパッケージに次の警告文が掲載されています。

脳梗塞をおこしてしまった患者さんの重症度

対象：2005年10月から2008年2月までに弘前脳卒中・リハビリステーションセンターに入院した心原性脳塞栓症患者(243例)



(弘前脳卒中・リハビリステーションセンターのデータより作図)

「脳をまもろうプロジェクト」HPから

『喫煙は、あなたにとって脳卒中の危険性を高めます。疫学的な推計によると、喫煙者は脳卒中により死亡する危険性が非喫煙者に比べ約1.7倍高くなります』

脳卒中は、死亡にいたらなくても寝たきりや介護が必要な生活を送る確率が高い病気です。タバコはその原因になる事を知っておいて下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久